

発行:余市協会病院

発行日:平成30年10月1日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

お問い合わせ:0135-23-3126



北海道胆振東部地震を経験して

社会福祉法人
北海道社会福祉事業協会余市病院
看護部長 本間美恵

北海道胆振東部地震は、2018年9月6日(木)3時7分59.3秒(日本時間)に、日本の北海道胆振地方中東部震源として発生した地震です。地震の規模はM6.7震源の深さは37km・最大震度7で、北海道では初めて観測されました。気象庁は同日、この地震の名称を「平成30年北海道胆振東部地震」と決めました。

厚真町が震源地となり地震が発生。地震発生直後には震度データの入電しない地点があり、気象庁は当初、安平町で観測された震度6強を最大震度として発表していました。その後、厚真町鹿沼で震度7を観測していたことが、当日夕方までに判明しました。2017年7月1日も地震の規模M5.1の地震が発生しており、最大震度5弱を安平町で観測していたそうです。

地震発生において、札幌に比べ余市町は幸い被害が少なかったです。積み重なった備品が崩れそうになった状況で患者さんには被害がなかったのが安心しました。

地震発生前の2週間前に停電が朝早くに発生し経験していたため、今回の地震発生後の停電に対しては速やかに対応することができました。

一番困るのが患者さんの食事です。幸い自家発電による緊急エレベーターの使用で配膳ができました。しかし、入院病室は電気がなく暗いため、懐中電灯を使用しながらの食事介助を行いました。各病棟の看護師長は、ナースコールで対応せず、ベッドサイドに行き患者さんの状況を観察するように指示を出すと看護師は患者さんが不安にならないように、いつも以上にベッドサイドに行きました。7日0時に停電は復旧し安堵しました。

マンション住まいの職員は、オール電化のため全てのライフラインがストップです。水タンクをもって7階まで階段を上ったことなど、汗をかきながら凌ぎました。

北海道地震とは、言われておりましたがこんなに早くに起こるとは予想していなかったと思います。余市協会病院職員は、全員一丸となって患者さんの安全・安心を守るために全力で診療と看護に尽くしたと思います。

余市協会病院公式 WEB サイト

当院公式 WEB サイト <https://ssl.hokushakyo.jp/yoichi-hospital/>では様々な情報を発信しております。是非お役立て下さい。

主要コンテンツ

病院紹介・入院案内・外来案内・医療費について・部門紹介・お知らせ etc

☆Facebook(フェイスブック)でも情報を発信しております。チェック、フォローよろしくお願いします!

研修医リレーコラム 104

「高齢者のてんかんって意外と多いんです」

こんにちは。8月に研修をさせていただきました鹿児島大学病院初期研修医 平方 翔太と申します。1か月という短い期間でございましたが、貴重な経験を積むことができました。皆様、大変お世話になりました。

さて、今回は高齢者のてんかんと発作のときの対応について、お話をさせていただきます。よろしくお付き合いください。

1. そもそもてんかんってどんな病気なの？

通常、ヒトの脳の神経細胞はお互いにバランスを取りながら、お互いに調和を乱すことなく活動していますが、この調和が乱れて過剰に活動してしまうのがてんかんです。発作のときの症状は様々で、代表的なものは「ガクガク震える」ですが、それ以外にも「せわしなく動き回る」という症状のこともあります。高齢者では「一時的に意識を失う」、「ただボーっとする」という症状が多いため、「立ち眩みがしただけ」ということで放置されたり、「急に認知症がひどくなった」と誤解されたりしていることが少なくありません。もちろん、本当に認知症が悪くなったという方もいらっしゃいますが、中にはてんかんの薬を併用することで改善する方もいらっしゃるのです。お近くの脳神経内科・脳神経外科・精神科(どちらでも結構です)にぜひご相談いただければと思います。

2. てんかんって子どもの病気じゃないの？

確かにてんかんが幼少期に発症しやすいのは事実で、成人するとてんかんの発症は一気に少なくなります。小児の神経のはたらきが成人に比較して未熟であることが原因と言われており、小児のてんかんの一部は成長とともに自然となくなることがあります。しかし、高齢者のてんかんでは脳卒中やアルツハイマー型認知症など、もともと脳に病気があって、そのせいで神経細胞の活動のバランスが取れなくなってくることが原因と考えられています。特に高齢者では1回目の発作のときから重積状態(発作がいつまでも続く状態)になりやすく、場合によっては命にかかわることもあります。また、高齢者では1度発作が起こると高頻度に2回目・3回目と繰り返すのでより注意が必要です。早めの受診をお勧めします。

3. 目の前の人突然発作を起こしたら

最後に小児や高齢者を問わず、目の前で発作に出くわしたときの対処法をお話いたします。大事なことは患者さんの安全を確保することです。けがをしないように周囲の割れ物をどかしたり、火元から遠ざけたりしてください。「ガクガクしている人の口にものをくわえさせる」・「発作が終わった後、意識がはっきりしないうちに水や薬を飲ませる」といった行為は窒息の原因になるので厳禁です。一般的には発作は数分すれば落ち着くので、ガクガクし始めた直後に救急車を呼ぶ必要はありませんが、「発作がある程度の長さ(目安は5~10分)以上に続く」または「短い発作でも反復し、その間に意識が回復しない」場合は特殊な処置が必要となるので、直ちに病院へ搬送してください。その他の詳しい助言は日本てんかん協会のホームページ <http://www.jea-net.jp/tenkan/hossa.html> にも記載されておりますので、ぜひご参照ください。

鹿児島大学病院 初期研修医 平方 翔太



救急件数 (8月)

外来受診285件 うち入院56件
救急車来院80件 うち入院35件